

上越市長

村山秀幸様

上越市の

更なる観光振興に向けた

要望書

平成29年1月17日

上越高工会議所 観光サービス業部会
公益社団法人 上越観光コンベンション協会

日頃から、上越市の観光行政にご注力をいただきまして、深く感謝を申し上げます。また、私たち観光関連業種に携わる民間事業者の声をお聞き届けいただき、上越市インバウンド推進協議会も設立され、活発な議論・事業が行われており、今後徐々に外国人観光客を中心とした来越者の増加が実績となって表れてくると期待しているところでございます。

さて、一昨年11月の高田開府400年記念事業の締めくくりフォーラムでの講師 磯田教授からは、「観光産業は既にGNPに占める割合は4%と、自動車など輸送産業と肩を並べるまでとなり、今後も伸びてゆく見通し。歴史を、教育や文化のみで語るのは20世紀まで。21世紀では歴史ほど産業を活性化するコンテンツは無い。まちおこしや観光に歴史を活用し、上品にお金を儲けるべきだ。」とご提案をいただきました。

それを踏まえて、各地の観光振興の先行事例を参考としてみますと、当地でもまだまだ手を打てる施策はあるのではないかと考える点もあり、行政の皆様と、私たち観光・旅行・宿泊・飲食業を中心とした上越商工会議所 観光サービス業部会（会員数 362 事業所）と公益社団法人 上越観光コンベンション協会（会員数 358 事業所）の会員が、共に知恵を出し合って、更なる観光客増加の為のルールを

引いていきたいと考えております。

一方、新潟県の観光関連業者の弱点は、季節波動やイベントの有無による来訪者数の変動が大きく、1年を通した正規従業員の雇用が難しい点と言われております。今後、「さらに観光客から選ばれる観光地へ」を目指し、年間を通じた上越市への来客絶対数の拡大を目標としていただきたいと思います。

つきましては、観光振興について次のとおり要望をさせていただきますので、すぐに着手可能な施策から順次ご採用を検討いただきます様、特段のご配慮をお願い申し上げます。

平成29年1月17日

上越商工会議所 会 頭 高橋信雄

上越商工会議所 観光サービス業部会 部会長 山崎邦夫

公益社団法人 上越観光コンベンション協会 会 長 田中弘邦

上越市の更なる観光振興に向けた要望事項

■要望1 「上杉謙信公・春日山城関連の観光施設等の整備拡充について」

これまでに、上越商工会議所と公益社団法人上越観光コンベンション協会では、2011年1月に観光基本戦略『やろっさ！戦略』を策定、2014年2月には『謙信公・聖地（フィールド・ミュージアム）構想』を発表し、観光振興の具体策を提言して参りました。『やろっさ！戦略』では、「謙信公ゆかりの地・春日山」と「花と雪の城下町・高田」の2ヶ所の観光施設集中地の優先整備を訴え、観光統一スローガンとして「義の心 謙信公の地いざ出陣」を策定。『謙信公・聖地（フィールド・ミュージアム）構想』では、コンセプトを「謙信公の魂に会える！聖地・春日山」と定め、詳細な整備目標（行動計画・アクションプラン）を提示させていただきました。

上越市におかれましても、観光振興5か年計画に基づき謙信公と一体となった春日山城関連の整備を着実に進めておられますが、私たちの要望としては、上越市観光の強いポイントをより集中強化することによって、数有る観光地の中から目的地に選ばれる地域にしていきたいと考えております。

要望させていただく内容は、すぐに全てが整備に取り掛かれるようなものではございませんが、長期的な視野から1歩ずつの整備進捗を共に進めてまいりたいと考えております。勿論それには、観光に精通した関係職員を長期間に渡って育てていくことも必要だと思われれます。そして、上越商工会議所と上越観光コンベンション協会からの今迄の2つの観光戦略提言と重複・発展させる形で、今回、以下の様なハード面、見える化事業、ソフト面の3つに分けて具体的な整備施策を提案させていただきます。

- ハード面…観光客の目的地選定の決め手となる中核施設「上杉戦国物語館（仮称）」の建設を最終目標にさせていただきたい（埋蔵文化財センターの「越後上越 謙信公と春日山城展」の展示と、春日山城跡ものがたり館の展示を統合することを視野に。・資料①）。展示物については、継続開催をしている埋蔵文化財センターの展示品や寺社・個人蔵の展示協力を仰ぎつつ、また複製品の活用もする（近年の各地の歴史博物館やお城の展示コーナーでも、古文書・武具など複製品の展示が多くなっています）。パネル・CG映像・ジオラマ等を活用し、謙信公の「義」の精神が伝わる様な近代的なストーリー展示をしたい。「義」という言葉だけでは計れない謙信公の魅力は、ストーリー展示が一番ふさわしいのではないかと考えます。同館は上杉氏と戦国史専門館であり、参考例にある様な各地の戦国武将紹介展示館同様の大型施設であれば、ここにしかない上杉本城・春日山城の詳細な展示やその支城網の紹介もクローズアップできます。現在市内では、歴史博物館の建設も進んでいますが、有名戦国武将の地元自治体では、武将や城郭の専門展示館と総合的な歴史博物館の並立が多く見受けられ、全国から駆け付ける戦国・歴史ファンの周遊観光に結び付けています（

謙信公・春日山城については同館、高田城や通史については歴史博物館が中心に展示という棲み分けも可能です)。

<参考施設：米沢市の伝国の杜(上杉家の展示・資料②)、仙台市博物館(伊達家の展示・資料③)、三河武士のやかた家康館(資料④)、埼玉県寄居町の鉢形城歴史館(北条家の展示・資料⑤)など展示・照明などを工夫した現代的な展示館を記載。>

- 見える化事業…高田開府400年記念事業のまとめの記念講演会(資料⑥)において、著名な人気歴史研究家 磯田道史教授からアドバイスをいただいた「上杉謙信公見える化計画」を進める時期だと考えます。磯田先生からも講演会時に、「上越市さんがやる気なら、安価でお手伝いしますよ。」といただいておりますので、この機会を逃す手は有りません。先生の監修の下、ぜひ整備を進めていただきたい事業です。

考えられる事業として、主要地への謙信公モニュメントの設置や上杉二十四将の銅像化。銅像散策マップの作成、スタンプラリーの実施等。謙信公を主人公とした小説・ゲーム・アニメ・漫画・グッズ作成者への支援。謙信公を題材とした小説の挿絵展・漫画の原画展の開催。謙信公の似顔絵を小中高生・一般から募集し、市内数ヶ所で継続的な展示の開催。公共施設での謙信公の街・シンボルマークの設置。市・発信の封筒への謙信公マーク常時印刷によるアピールなど。

<参考地：南魚沼市六日町の兼続通り商店街(資料⑦)、磯田先生監修の静岡県浜松市の家康像設置等の見える化計画(資料⑧)、銅像設置で大人気の鳥取県境港市の鬼太郎ストリート等(資料⑨)>

●ソフト面

- ・登城コースの各所に、本丸までの残距離表示の設置(山城では、本丸まであと何メートル登れば良いかが解ると安心できる)。
- ・初めて訪れた観光客にも春日山城の場所がすぐ判る様に、山城らしい「幟旗(のぼりばた)」の多数設置や長野県茅野市上原城の様に大型看板を設置し、電車内からもその位置がすぐに判る様にする。(資料⑩)
- ・春日山城の各登城口には「冠門(かぶきもん)」を設置し、登城気分を盛り上げる。各門には散策コース(登城路)案内看板の設置と散策地図等を配置し、山での迷子の防止と散策開始の基地(ベース)とする(資料⑪)。
- ・富山県の三大山城の一つ「増山城(砺波市)」では、山城の頂上まで登って本丸で撮影したデジカメやスマホの証拠画面を、山の下にある埋蔵文化財センターで提示すると、観光客に「登城証明書」をプレゼントするサービスを開始して大変喜ばれている(資料⑫)。証明書と共に近隣の土産店・飲食店の割引券も配布して、地域経済活性化を目指すという計画もある。

- ・春日山城と同様に、城郭建物が残っていない佐賀県名護屋城（秀吉の朝鮮出兵の前線基地の城・資料⑬）や奈良県高取城（日本三大山城の一つ・資料⑭）・滋賀県安土城（織田信長築城の最後の城・資料⑮）等では、城跡のポイントでスマホやタブレット端末をかざすと、在りし日の城郭建物想像図が復元CG（VR/ヴァーチャルリアリティ）で見られる様にし、大好評とのこと。各地の工夫を参考にして、出来る事から着手していただきたい。
- ・映画・ドラマ等で上杉家を演じた俳優の方達に、なるべく費用を掛けずに「名誉観光大使」になっていただき、PRの機会強化を図る。前述の富山県増山城では、山城に詳しい人気落語家 春風亭昇太師匠を名誉城主に認定し、話題となっている（資料⑯）。最近の有名人の情報発信力はSNS等も加わり、大きなPR効果に繋がると考える。
- ・謙信公の生誕490年（2020年）に、記念行事として全国から観光客が多数訪れる「全国山城サミット」の2回目の開催誘致を目指していただきたい（前回は平成8年に第3回大会を当市で開催。全国で年一回全23回開催されています）。

■要望2 「上越の偉人・先人の顕彰・教育・活用について」

米沢市の小学校では、上杉謙信公の遺訓（家訓十六ヶ条）を全校に掲示し、児童に意味をきちんと教えている。大人になっても覚えている方も多く、歴史ある地域としての誇りに結び付けている。上杉本国の当地でも、同様の取組みは必要ではないか。

上杉家に限らず、市では近代の「上越の偉人・先人61人」を選定している（資料⑰）。この偉大な方々を、地元に住んでいながら知らない人も多い。もっと顕彰・活用すべきである（地域の財産である）。

具体的な事業として…

- ・小学校での教育や地域のイベント時に、「上杉謙信公の本拠・上越市」の周知・教育をさらに進めていく。総合学習の時間を活用しての地域の歴史調べの実施や、各学校をボランティアの方に巡回していただき、謙信公と上越のお話をしていただく事業を提案したい。
- ・遠足・校外学習などで、前島密記念館や小川未明文学館、坂口謹一郎記念館・小林古徑記念美術館、日本スキー発祥記念館などを訪れてもらい、地域の先人達に学ぶ機会を増やしていく。
- ・文化振興課で作成済みの「偉人・先人紹介パネル」を、各種行事に更に積極的に掲出し、市民に周知を高めていく事が良いと考える。
- ・選定61人の中でも有名な6人を選抜され、顕彰行事を開始されたと聞いているが、まずは地域の偉人を知る上での導入として有効。積極的に、継続的に、各種行事を企画していただきたい。

■要望3 「高田公園の名称を高田城址公園に改称希望」

歴史と伝統・文化の街「上越市」であれば、そろそろ高田公園の名称を「高田城址公園」に改称する機は熟してきているのではないかと考える。他の地域から訪れた観光客にも、地図表記名称が変わるだけで、観光来訪PR効果が出てくると考える。

観光客の求める情報を分かり易く提供する事が大事。近隣各地の主要城郭があった街では、「城址公園」名が城下町市民の心の拠り所として親しまれている（資料⑱）。市民・議会のコンセンサスを得た上で、看板・ホームページ等主要なところから改称作業を進めていただきたい。

■要望4 「インバウンド対応の更なる強化」

我が国への外国人観光客が過去最多を更新する現在、徐々に複数回の渡航者も増えてきている。このことは、主要な訪日客観光ルートから距離がある地方都市にとってはチャンスと考えられ、定番の東京や京都といった観光地では無く、「上越市」独自の魅力をアピールしていかなければならない。そのため、以下の事を要望いたします。

- ・まずは、訪日客に来ていただける様な環境整備の為、主要な交通表示・観光看板への外国語表記の拡充を継続的に希望。
- ・引き続き、インバウンド推進協議会への強力な支援。補助金枠の拡大。
- ・インバウンド事業での妙高市との更なる連携。協力体制の構築。
- ・妙高地域へ来られた外国人スキー客への、当市の観光地・飲食・売店・宿泊施設等のPRの強化。歴史的な観光施設等への外国語の説明文の増設。
- ・インバウンド推進協議会作成の外国人向け街歩きマップの有効活用。

■要望5 「新水族博物館オープンと直江津地区等の活性化」

市立の新水族博物館の開業が徐々に近づいてきています。オープン時のみならず、今後の継続した地域活性化に結びつける為、以下の項目にご配慮いただける様、希望いたします。

- ・多くの観光客の来訪が予想されており、それに対応した駐車場の多数整備、来場者が迷わない様な観光誘導看板の設置を要望いたします。
（直江津駅前・国道沿いへの大型案内看板の設置等）
- ・インバウンド客にも対応した、館内の主要表示の多言語表記を希望。
- ・直江津地区住民と連携した多くのイベント・行事の開催を希望。

- ・せっかく来ていただいた観光客を、新水族館だけでは無く、市内の観光地・飲食店・土産物店等へ寄っていただく様な仕掛けづくりを、今後も市と水族館と地域とで一緒に考えていって欲しい。地域とうまく連携して魅力アップに繋がれば、地域全体の観光周遊プラス効果・地域活性化に寄与していくと考える。

■要望6 「県立武道館の呼称運動についての支援」

現在、上越総合運動公園内に新潟県立武道館の建設が進んでおります。平成31年9月に完成し、12月1日供用開始と伺っております。その維持管理では、PFI方式が導入され、民間業者が本年1月に指定管理選定されると聞き及んでおります。その誘致成功にあたっては、上越市様や上越武道連盟様、その他団体のご尽力があったことは言うまでも有りません。

その上越武道連盟様では、武道館の呼称を「新潟県立謙信公武道館」にしていただきたいという運動を開始されております。提案趣旨に拠りますと、①謙信公以来の武道の盛んな街・上越市のアピール、②全国から訪れる利用者への観光面での好影響を引き出す とのことであり、この事は私たちの趣旨にも合致するものと考えます。今後、上越武道連盟様を中心に、県や選定業者への要望活動が行われると思いますが、上越市様におかれましても「上越をアピールするチャンス」とお考えいただき、ご支援をいただきたいとお願いする次第であります。

■要望7 「平成30年の冬季国体対策について」

- ・既に開催が決定されている平成30年2月25日～28日の「にいがた妙高はね馬国体」において、開催都市・妙高市と協力を計り、当市の宿泊・飲食施設等のバックアップ体制を構築していただきたい（地域を挙げての盛上げ機運醸成と経済への好影響につなげたい）。

■要望8 「上越市での観光DMOについて」

- ・近隣自治体では、観光誘客策としての「DMO」の設立に向けた動きが見られる。当市でも常に情報を把握し、得られる効果等の検証に努めていただくと共に、必要に応じて、民間事業者・団体との情報交換を行っていただきたい。

以上

※ 本文中の資料ナンバーが付いた資料は都合により割愛しております